令和5年度

項目	質問事項	割合 (%)	■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない	考察			
基礎基本の定着	【生徒】 帰りの会で「今日の家庭学習のめあて」を記入し、見通しを持って取り組んでいる。	13	27	29	31	学習委員を中心に、帰りの会において「今日のめあて」を自主学習ノートに記入する取組を行っているが、生徒の評価は昨年に比べて19ポイント下降している。その一方保護者の肯定的な評価は5ポイント上昇している。生徒は学年が上がるにつれて、評価が低くなる傾向にあるため、めあてと振り返りを行う意義を説明するなど、教師の工夫が求められる。	
	【保護者】 各教科のテストの活用は基礎基本の習得に効果を上げている。	15	53	8	2		22
家庭学習の習慣化	【生徒】 家庭学習に取り組む習慣が身に付いている。	32	41	20	7	生徒の73%、保護者の65%が肯定的な評価をしている。これは、生徒に関してはほぼ同等の結果であったが、保護者は10ポイント下降している。今後は、どのようにしたら習慣化が図れるのか教師側の工夫と支援の必要がある。また、家庭学習の質の向上を図るための方策が求められる。	
	【保護者】 自主学習への取組は、家庭学習の習慣を身につけさせる上で効果を上げている。	22	43	17	7		11
授業力の向上	【生徒】 授業は分かりやすい。	26	52	19	3	授業が分かりやすいと回答した生徒が昨年度に比べて4ポイント下降している。また、保護者の肯定的な評価も12ポイント下降している。これは、我々教員の授業力を向上させるための早急な方策が必要である。教職員の研修の機会を設けながら、生徒に分かりやすい授業の展開ができるよう努めていきたい。	
	【保護者】 授業は分かりやすく工夫されている。	10	44	10	2		33
学習支援・教育相談	【生徒】 学習内容や悩みを、先生に質問したり相談したりすることができますか。	21	31	30	18	今年度は生徒の52%、保護者の48%が肯定的な回答をしている。これは、昨年と比べると生徒が6ポイント下がり、保護者が14ポイント下がっている。本校では年間2回教育相談を実施しているが、今後は生徒や保護者のさまざまなニーズに対応できるよう、スクールカウンセラーを含めた相談体制を整えていきたい。	
	【保護者】 学習内容について、学校は、生徒が質問しやすい雰囲気になっている。	10	38	11	5		35
規則正しい生活	【生徒】 「あいさつをする」「服装を整える」「忘れ物をしない」など、気を付けて生活している。	51	36	10	3	今年度、「あいさつをする」「服装を整える」「忘れ物をしない」という問いに肯定的な回答をした生徒は87%であり、昨年とほぼ同様な結果であった。保護者の回答も75%であり、昨年とほぼ同等の結果であった。学校全体が落ち着いた雰囲気であり、生徒も規則正しい生活を心がけている。この状況を維持していけるよう、さらに生徒が主体で自らの生活を顧みる機会を設けていきたい。	
	【保護者】 明るくけじめのある学校生活を送っている生徒が多い。	11	64	9	5		11
プロセスを重視した行事への取組	【生徒】 運動会、文化祭などの行事に、友達と協力して積極的に取り組んでいる。	65	29	4	2	生徒の94%、保護者の86%が行事の取組に対して肯定的な高い評価をしている。これは昨年と同等の評価であり、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、行事も全校生徒が一堂に会して実施できるようになったことにより、生徒の行事の達成感や自己有用感につながったものと考えられる。	
	【保護者】 運動会・文化祭等の行事は、仲間作りや学校生活の充実のために工夫されている。	25	61	1	6		8
地域との連携	【生徒】 地域の人に進んであいさつをしたり、地域の行事に積極的に参加したりしている。	39	48	10	3	地域との連携に肯定的な回答をしている生徒は87%、保護者は69%であった。これはどちらも昨年と同等の回答であった。学校運営協議会の委員の皆様からも、学校外で生徒からさわやかな挨拶を受けることが多く、気持ちがよいという意見をいただいている。また今年度、生徒の中には地域の祭りやしらさぎマラソン、町民スポレク祭のボランティアに参加し、地域で活躍する姿が見られた。	
	【保護者】 地域の方や保護者に進んで挨拶できる生徒が多い。	17	52	21	5		6
安心・安全な学校生活 いじめ防止	【生徒】 学校は、不安がなく落ち着いて生活できる場所になっている。	38	43	11	9	生徒の肯定的な評価は昨年と同じであった。保護者の肯定的な評価は4ポイント下降している。学校は様々な感染症の感染対策を実施しながら、安心・安全な学校生活を送れるよう努めている。今後はさらに生徒の心に寄り添いながら、いじめ防止に向けた積極的な取組を充実させ、問題行動の未然防止と早期発見に力を入れていきたいと力を入れていきたいと考えている。	
	【保護者】 学校は、生徒や保護者にとって相談できる雰囲気になっている。	13	59	15	5		9
	【保護者】 学校は、いじめ防止に努めている。	10	50	10	6		25

項目	質問事項	割合 (%) ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまり思わない ■ 思わない	考察
部活動	【生徒】 部活動は、技術を向上させたり、友達や教員との関係を深めたりするなど、有意義な…	60 29 9 2	昨年度に比べて生徒の肯定的な評価は3ポイント減少しているが、保護者の評価は2ポイント上昇している。学校教育における部活動の役割はとて大きいものがあり、顧問は生徒のより良い成長や人間関係づくりを目指した部活動運営を展開できるよう、工夫、改善を図っていききたい。
	【保護者】 部活動は、望ましい人間関係の育成や明るく充実した学校生活につながっている。	24 53 9 5 10	
保護者との連携	【生徒】 学校からのたよりや配付物をその日のうちに家の人に見せている。	33 31 26 10	生徒の評価は昨年に比べて「たよりや配付物を家の人に見せている」という問いに対して14ポイント下降し、「学校のできごとを家の人に話している」という問いに対しては2ポイント上昇している。これは連絡システム「すぐーる」により、配付物の削減をした結果であると肯定的に受け止めたい。 また、保護者の評価は「個人懇談や三者面談、PTA活動等で連携がとれている」の肯定的な回答は昨と同様であり、「学校の様子を保護者に伝える工夫や努力が感じられる」に対しては、6ポイント上昇した。これは「学年・学級たより」や「学校ホームページ」の取組の成果によるものと思われる。保護者との連携は充実した学校教育を行うためにとても重要なことであることを認識し、今後更に保護者や地域と連携しながら教育活動に取り組んでいきたい。
	【生徒】 学校のできごとを家の人に話している。	47 29 15 9	
	【保護者】 個人懇談や三者面談、PTA活動等で保護者と教職員の連携がとれている。	18 68 7 2 5	
	【保護者】 学校の様子を保護者に伝える工夫や努力が感じられる。	25 67 3 2 3	

【全体を通しての考察等】

今年度は、10項目のうち保護者・生徒共に上昇した項目は「保護者との連携」であった。連絡システム「すぐーる」の活用により、学校と家庭の連絡がしやすくなった。特に学年便り、学級便りなどを「すぐーる」を活用して配信することにより、生徒を介さず学校からの連絡を受け取ることができるため、学校の様子や提出物などを把握できるようになったと考える。また、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、学校行事も通年通りに開催されるようになり、保護者の参観等も行えるようになった。保護者が、学校での生徒の様子を見る機会も増えたことも大きな要因である。

さらに生徒の「プロセスを重視した行事への取組」の評価については、昨年と同等であり、今年度は文化祭(合唱コンクールや有志発表など)を体育館で対面で実施したことによる自己有用感の高まりが見られた。

一方、生徒、保護者共に評価が下がった項目は「家庭学習の習慣化」「授業力の向上」「学習支援・教育相談」であった。新学習指導要領の実施に伴い、「ICTの活用」や「主体的・対話的で深い学び」の授業実践のため、県教委のサポートによる学力向上指導員派遣事業での校内研修を実施している。その研修などを通して、生徒にとって魅力的な授業づくり、分かりやすい授業の展開等の授業改善を行って基礎学力の定着を図り、今後の学力向上に向け、より一層力を入れていきたい。また生徒一人一人の能力や適性、ニーズを考慮した個に応じた指導を行える支援体制のさらなる充実を図っていききたい。

最後にアンケート結果を真摯に受け止め、課題を解決していくために、教職員のみならず保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら、「地域と共にある学校づくり」「信頼される学校づくり」を目指し、教職員一丸となって取り組んでいきたい。